



# 米子市埋蔵文化財センターたより



第46号

2022年9月

## 戦争遺跡 旧海軍美保航空隊基地掩体壕

－ 米子市の文化財に指定 －



1号飛行機用掩体壕と見学者

遺跡は原始古代から近代に営まれた長い歴史を知ることができる文化財です。最近では近代遺跡、近代化遺産の保存が問題になることがあります。

米子市では平成18年発行の「新修米子市史現代資料編」の編さん調査時に、近代化遺産として、米子市に残る軍事関係資料の残存状況を調査し、今後の保存措置の可能性を検討する資料とするために戦争遺跡の<sup>しっかい</sup>悉皆調査がされました。その結果、市内には飛行機用掩体壕のほか格納庫、弾薬庫、給水槽基礎、防空壕、鉄道引込線ホーム、門柱など鉄筋コンクリート造の顕著な遺構21基が確認されました。

令和4年8月、米子市文化財保護審議会は、上記の遺構のうち1号飛行機用掩体壕を米子市指定史跡として保存するよう答申しました。1号飛行機用掩体壕は、鉄筋コンクリート造りで高さ約4m、全長約11.5m、開口部幅約14mを測り開口部の上部に幅62cm、高さ91cmのスリットがある構造です。

県内で近代の戦争遺跡が文化財指定されるのは初めてのことです。(下高)

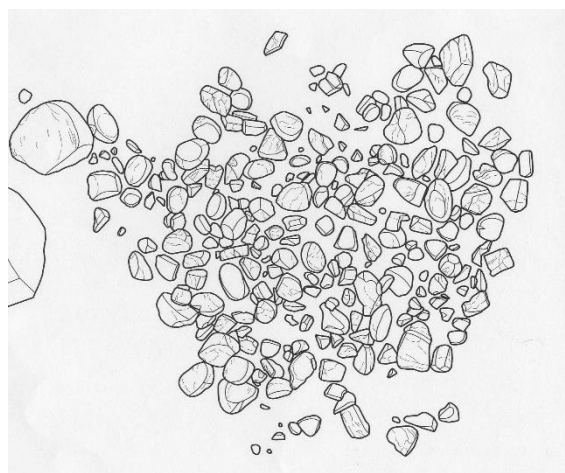
## 発掘調査情報

### 伯耆町 根雨原土手下夕遺跡の集石遺構の写真測量

根雨原土手下夕遺跡では、12基の集石遺構が検出されています。発掘調査では、検出された遺構等を写真撮影や図面を作成し、記録として残さなければなりません。図面の作成は、本来、メジャー等を用いて計測を行いますが、当遺跡では、図面作成の省力化のため、業者に委託して、写真測量を行いました。写真測量は、対象となる遺構を真上から少しずつ位置をずらしながら写真撮影を行い、さらに、対象となる遺構の四隅に設置した標定点を測量します。そして、これらを合成し、1枚の写真をつくり、この写真をトレースして図化します（高橋）。



集石遺構



写真測量による集石遺構図

## 整理室たより

### 尾高城跡試掘調査出土品の整理

整理室では、今年度試掘調査で出土しました尾高城跡の出土遺物の整理作業を行っています。試掘調査は、遺構の確認を目的に本丸郭と二の丸郭に入れられた10数本のトレンチからの出土品です。出土遺物は、備前焼の壺、播鉢、土師皿などの国産陶器と、青磁、白磁、染付などの貿易陶磁器、永楽銭などの銭貨、小柄、釘などの金属製品と石臼などです。

中でも量的に多いのが土師器の小皿です。ほとんど割れたものですが、灯明皿の痕跡はなく酒宴で使用され捨てられたものと考えられます。

遺物の構成や型式から、16世紀中~後半の時期のものと考えられています。（小原）

### —大量の土師質小皿—



出土した土師器皿の一部

## 遺跡シリーズ 普段寺古墳群 (ふだんじこふんぐん)

普段寺古墳群は、南部町天万にある普段寺山の標高 50m の丘陵上に立地する 5 基の古墳群です。

1921 年(大正 10)に土砂採取で 2 号墳から三角縁神獣鏡が出土し、更に 1952 年(昭和 27)に 1 号墳から三角縁神獣鏡、鉄剣、管玉が出土して知られるようになりました。

1 号墳は、丘陵先端に位置し全長 22.5m、後円部径 11.7m、高さ 2.4m の前方後方墳で、埋葬主体は木棺墓と推定されますが盗掘攪乱が著しいです。副次埋葬施設として複数の大型土器棺墓が確認されています。注目されるのが羽状文や円形浮文や波状凸帯を付した合子形土器や器台形土器です。

2 号墳は、径 23m、高さ 3 m を測る円墳ですが、方墳とも考えられています。

両古墳とも出土遺物から古墳時代前期の時期と考えられ、三角縁神獣鏡を副葬していることから西伯耆の有力な首長豪族で、法勝川流域の首長系列の古墳と考えられています。(小原)



普段寺古墳群図

### コラム 発掘された遺物⑥

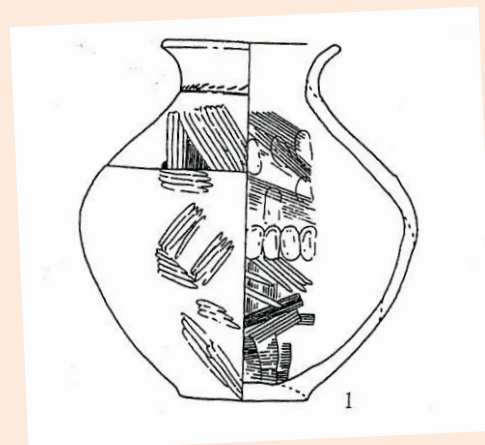
### — 弥生時代前期の土器 —

弥生時代前期は、2 千年 3 百年前から 2 千百年前と考えられています。

弥生時代の土器は、縄文時代の土器に比べて、壺、甕を主体に高坏や 鉢などの各種の形態が見られるようになります。

前期の前半頃の土器は、遠賀川式土器群で、へら描の平行沈線文、綾杉文、弧文、木の葉文等様を主体とします。

前期後半頃の土器は、多条平行沈線文、刻目凸帯文等が現れ、前半期より装飾性が増してきます。(小原)



長砂第 1 遺跡の壺

## センター・資料館日誌

6月20日（月）下高館長が鳥取大学医学部で講師として講義した。

演題「日本の文化と心」

6月29日（水）～7月1日（金）埋蔵文化財センターで米子南高校生徒3名がインターンシップ。

6月30日（木）「百塚88号墳の発掘調査」を上淀白鳳の丘展示館で開催



7月16日（土）東大・淀江プロジェクトキックオフ記念シンポジウムが開催された。



7月19日（火）7月19日～7月25日（月）島根県古代文化センターの岩本氏が須恵器調査で来館。

8月6日（土）尾高城跡出土遺物検討会  
於 米子市埋文センター

8月8日（月）埋文センター見学で青谷高校生徒8名来館した。

8月25日（木）米子西高校の教員が初任者研修で埋蔵文化財整理を体験研修

した。

8月27日（土）第49回山陰考古学研究集會を開催した。

於 米子市文化ホール



8月28日（日）第49回山陰考古学研究集會見学会で旧海軍美保航空隊基地の掩体壕等を視察した。

9月2日（金）古代出雲歴史博物館学芸員が借用遺物の返却で来館された。

9月4日（日）根雨原土手下タ遺跡の現地説明会を開催した。

9月7日（水）福市企画展「発掘された土の城」展を開始した。

9月10日（土）第1回考古学講演会「鳥取県の中世城館跡」を開催した。

## 編集後記

夏の暑さが去り、すこし涼しくなり秋の訪れを感じる季節となりました。コロナウイルス拡散が少し収まりつつありますが、ウクライナでの戦争は収まりそうにありません。一日も早く戦争が収まるよう祈っています。

発行日 令和4年9月15日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者（一財）米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp